青森県立郷土館研究紀要 第38号，27-36，2014．3

大正時代の藤田組青森電錬所と東岳石灰岩鉱山

島口　天[1)]

Mt. Azumadake limestone mine and Electric smelting furnace of Fujitagumi in Taisho Era

Takashi SHIMAGUCHI

Key words：大正時代，合名会社藤田組，青森電錬所，東岳石灰岩鉱山，青森電燈株式会社

1　はじめに

青森市の港町から山手（南方）へ延びる片側2車線の道路が「藤田組通り」と呼ばれているのは，大正 7～9年（1918～1920），合名会社藤田組が設置した「青森電錬所」に由来する．青森電錬所は，下北地域で採掘した砂鉄を，電気炉を使い合金鉄および低燐銑を生産する目的で設置され，青森電燈株式会社の水力発電による電力を利用した．これには，第一次世界大戦が始まったことで海軍に艦艇建造用鋼材の原料である合金鉄を供給するという目的があったが，大正7年11月に戦争が終結したことで合金鉄需要の減少が見込まれたこと，砂鉄が合金鉄の電気製錬に不適であったことで，設置からわずか2年で閉鎖された（島口，2012）．

また，藤田組は青森電錬所設置より前の大正3年に，青森市東部に位置する東岳（標高684.0m）の西側中央山腹で石灰岩鉱山の開発を始め，同 5 年に野内駅まで4,784mの索道を架設している．採掘された石灰岩は，索道及び鉄道を利用して同組が経営する秋田県の小坂鉱山へ運ばれ，製錬所の溶剤として利用されていた（島口，2011）．電気炉で合金鉄等を生産する際には石灰石が使われることから，青森電錬所でも東岳の石灰岩を使用したことが考えられるが，それに関して記述した文献等はみつかっておらず，両者の関係は不明であった．

筆者は，大正3年1月から同10年4月までの東奥日報を調査し，得られた東岳の石灰岩鉱山と青森電錬所に関する記事から，島口（2012）に記載した同電錬所の設置・閉鎖の経緯を補うとともに，両者の関係を考察した．この結果について報告する．

2　東奥日報掲載記事

記事はできるだけ原文のまま掲載したが，旧漢字は新漢字に，難読漢字は平仮名に直し，句読点を入れて文章を区切ったほか，文章表現を意味が変わらない程度に現代の表現に直した．

（1）東岳の石灰岩鉱山に関する記事

■ 大正4年

5月22日「東郡野内村便り」：小坂鉱山にて中止中なる東岳の石灰山より野内停車場に至る鉄索工事は，この度青森市の田中勇三，村長田村武之助の両氏不景気の労働者に仕事を与える目的を以て工事に着手運動せんため，野内停車場前土地所有者横内義悍，逢坂春吉ほか関係地主一同と協議するところありたり．

9月13日「東郡野内村だより」：東岳の鉄索工事が一時，敷地の買収に多少のゴタゴタはあったが，これもひとまず解決がついても工事が急に着手せらるる様子もないので，少なからず手違いを生じたる．

■ 大正5年

7月2日：（前後文省略）野内鉄索は同様藤田組の経営に係り，東岳より石灰石を採掘して鉄索にて野内に運び，野内より鉄路小坂鉱山に輸送しつつあり．昨年，鉄索運転用の電気動力供給を青電に交渉し，青電の都合にて目下ガス動力を使用しおれり．

7月17日：大阪藤田組にては，小坂鉱山の製錬用に供するため従来本県八戸湊方面より石灰石を輸送しおりしが，昨年より東郡野内方面において石灰石採掘を開始し，1トンにつき1円4銭に鉄道運賃を協定し，本年1月4日より毎日75トンずつ輸送し，6月末特約満期とともにさらに12月まで契約特約し，その後1日125トンずつ輸送しつつあるも，小坂鉱山の石灰石使用量は1ヶ月1万トンなれば到底これを以て足れりとせず．現になお八戸・湊両駅より毎日270トンの指定輸送をなしつつあり．去れば同組が青電より 2,000～3,000kw の電力供給を受け，当地付近において何か新事業を営まんとするは必ずしも野内石灰石に直接関係せるものならざるやも知るべからず．もっとも青電対藤田組の仮契約は，近々当地において締結せらるべき模様なり．

8月11日「東郡野内便り」：東岳の石灰山にては，あまりに怪我人頻々出づるを以て山を清め，山神を祭るため盛大なる山神祭を12日に施行する由定めし．盛況なるべし．

■ 大正7年

4月15日：一昨夜9時半ころ，東郡東岳村石灰石山の長屋より発火し，全焼6棟25戸を烏有に帰し，野内村野宮平内（37）は焼死を遂げ，午後10時半鎮火せり．

損害は1万5千円くらいなるも同地は交通並通信機関不備のため態夫をもって野内駐在所に急報し，この報に

1）青森県立郷土館　主任学芸主査（〒030-0802 青森市本町二丁目8-14）

より青警にては奥寺部長を取りあえず現場に急行せしめたるが，いまだ詳報を得ざるも山間辺陬の地なれば水利と消防の設備なきため，惨状を呈せるならんと．

6 月 17 日：本年 4 月 13 日失火類焼の藤田組生石採掘東岳出張所住宅新築のため，秋田市小坂町遠藤和吉氏請負，目下野内停車場前において盛んに施業中なるが，家族 10 戸分を収容するもの 4 棟，50 人宛収容するもの炊場 3 棟，この総工費約 1 万 5 千円にて，来る 25 日ころ竣工の予定なり．

（2）青森電錬所に関する記事

■ 大正 5 年

7 月 2 日：藤田組が本市付近に一工場を設けんとの計画は昨年 7 月，藤田組の重役間に協議せられしが，超えて今年 1 月下旬いよいよ計画熟し，青森電燈会社と電力供給の件に関し具体的交渉を開始するに至り．相互折衝の結果，各相互間の条件内定したれば，6 月 25 日青電重役会議を開き拡張案を可決し，電力供給の準備をなせり．今年 3 月上旬，時事新報に藤田組が本市付近に硫黄採鉱の大工場を設けるべく，そのために青電の増設工事を見るに到れりと記報せられし事あり．その後，少市民の噂となれるがごときも，しかも青森電燈対藤田組の契約が完結せりというにはあらず．青電側にては電報にて藤田組の回答を促しあり．回答を得るまでいまだ多少の時日あるべし．しかれども大体両者の契約は近日中に締結さらるるは確実にして，従って近き将来に藤田組の経営に係わる一大工場が本市付近に設置せらるるは，ほとんど既定の事実なりとみて差し支えなし．

しからばその工場において従事すべき事業如何というに，これは坊間に流伝せらるる，いわゆるカーバイトにはあらず．カーバイト云々の噂は，野内鉄索と事実を混同せしより生ぜるものならんが，（途中省略）この度の新工場はカーバイトにはあらずして，製鋼専門かまたはいまだ詳らかにせざるもカーバイトには関係なき他種の独立せる化学工業と及び製鋼の二事業を兼営するか，いずれかなるがごとし．

さて，青電より電力供給を実行する暁には，特別高圧線によらざるべからず．しかるに特別高圧線を市内に架設せんには特別の条件を付帯せしめざるべからず．従って何らか特種の事情なき限りは，発電所より栄町変電所に至る中間の地点ならんかと想像さるるもいまだ青電藤田組間の契約が完結せざる際なれば，敷地の位置その他は確定せるものにはあらざるごとく．かつまた資本金額のごときも製鋼独立かまたは他種の化学工場兼営かによりて異動あるべく，二者兼営とするも 500 万円以内になるがごとしと．

11 月 8 日：大阪藤田組にて当市付近に約 200 万円を投じ製鋼事業を開始せんとし，青森電燈会社へ電力供給方を交渉し来たれば，会社にて臨時株主総会を開き，増設工事費支出方法を会社役員に一任し，いよいよ仮契約の段取りとなるや藤田組にてはいかなる事情にやこれが締結を肯せず．多分交渉打切りのほかなかるべしと既報しおきしが，先に柿崎青電重役は大阪へ赴き，約 40 日間滞在し，過日帰青し語るところによれば，該当問題は今回いよいよ交渉打切りに決定したりという．

右につき今日に至るまでの経過を聞くに，最初藤田組より交渉ありたるは本年 1 月にして，同組猪苗代湖付近の製鋼所主任技師田窪氏は青電の富田主任技師と同県（愛媛県）出身の関係上，藤田組は田窪技師を以て富田技師を介し青電へ交渉あり．柿崎重役も田窪氏と面識あれば漸次交渉円満に進捗し，ついに青電臨時総会まで漕ぎ付けし次第なりしが，当時，藤田組の言い分によれば猪苗代電力は 1kw あたり 1 銭（実は 9 厘ならん）にして到底事業経営至難なれば，青電が 5，6 厘で供給せば猪苗代製鋼所を青森に移転すべしというにありて極秘に付しありたれば，本紙も暫くこれを詳記せざりしが，これより先青電にていよいよ 5，6 厘にて電力を供給せんか製鋼事業のほかに藤田組の責任を以って肝付男を社長とするアルミニウム会社の一部事業をも当地において実施すべしとの事なりしに，青電において臨時総会を開き，電力供給を決議すべく取り運び中．まず，アルミニウムの方は破約となりたれば，世間よりは雲行き何となく怪しく思われしも，青電にては柿崎重役の計画を尊信して仮契約書を送付して調印を求めしに，数旬を経過するも回答なく，電報を以って照会せしに田窪技師出青すべしとありしもこれまた来青せず．ついに去る 9 月，青電の方より柿崎重役上阪してようやく決着したる所は前記のごとくにして，猪苗代製鋼所移転の件は全然打切りとなりたるものなりと．よって，青電にては年内に株主臨時総会を開き経過を報告し，前の決議取り消しをなすべしと．

■ 大正 6 年

5 月 11 日：大阪藤田組にては，当市大字造道浪打地内（相馬町付近の道路並びに公園道に沿いたる場所）1 万数千坪を購入し，青森電燈会社より 900kw の電力供給を受け，来る 9 月よりカーバイト事業の経営をなすに契約復活確定したるが，将来両社の都合にてさらに 2,000kw の電力供給する内約ある由．

5 月 12 日：藤田組新事業計画につき青電にて電力供給に決したると昨紙記報せしが，右に関して青森電燈株式会社取締役兼支配人柿崎善祐氏は語る．

電力供給に関し昨春，藤田組より交渉ありたる当時において，同組の工場を当市に設置せらるると否とは当市工業の発展上その他に至大なる関係を有する問題なるを以て当会社は慎重に審議を遂げ，当市公益上に貢献するの見地に鑑みて極めて低廉なる電力料を以て交渉を進めたるに拘わらず，中途において種々の事情発生したるかために昨秋，上阪の上ある覚書受領の下に一時交渉を打ち切りとなすの止むを得ざるに至れり．しかるに本年 2 月初旬，同組よりカーバイト事業の経営に当会社の電力を使用致したき趣きを以て再び交渉を開始せられ，それ以来交渉進行の結果，3 月 4 日に至り同組より田窪氏外 1

名来社，契約案件の協議決定とともに同氏は余と同行，上京の上東京において社長藤田男爵と会見，契約案を一覧に供したるのち直ちに大阪の本店に赴き，同組理事会の決議を求めたるに，同会の意見としてある一条件の追加案を提出せられたれば，帰社の上13日を以て当会社においても重役会議を開催し，先方より提出の案件を付議したるに，異議なく可決したるを以てその旨を同組に回答に及びたれば，契約案件は既に確定したれども工場敷地候補地の内いずれかを確定の後にて契約書を交換すべき内約あるにより3月下旬再び田窪氏来社，工場敷地選定の上，4月1日付けを以て契約書の調印を結了し，ここに電力需給の契約締結の成立を告げたり．

契約の内容，差し当たり電力900kwを使用し，本年9月中に同組の新工場において電力の需給を開始する予定にてなお遠からず．双方の都合にてさらに2,000kwの電力を需給する仕組みなれば，ほとんど昨年の2,900kwの電力使用の交渉を復活せしめたる姿にて，ただ契約年限は5年と変更したれども，その他は大同小異なり．藤田組にては交渉まとめたりたると同時に，工場の敷地として当市大字造道字浪打地内（相馬町付近の道路並びに公園道に沿いたる場所）と確定し，将来の大拡張を見込み1万数千坪の土地購入の手続きをなし，土地受け渡しの結了次第直ちに起工のはずにて，目下それぞれ準備中にして本年9月中を期して事業開始の予定なれば，当会社もまたそれに応じ得る増設工事の準備はすでに着手し，機械その他の材料も不日到着の都合なり．

（付言）当会社は昨年5月，新発電所増設工事の落成を告げたれども電気事業将来の趨勢に顧みて，昨秋よりさらに堤川水系に属する河川の水力を利用し，発生電力量約10,000kwの供給をなし得るの計画を立て，それ以来引き続き調査中なれば，将来これを実現するの暁には，前記藤田組に契約の2,900kwのほかに同組関係の会社においてもなお電力使用の希望もあり，その他交渉中に属するものもあれば，海陸の便宜も豊富にして低廉なる電力とは殖産工業の原動力として利用せられ，近き将来には大小諸種の事業の勃興を促し，当市もしくは付近の場所に漸次工場の新設を見るべく，しかして工業の発達は当市の発展に資すること恐らく少なからざるべしと信ず．

5月26日：大阪の藤田組において青森電燈会社より電力900kwの供給を受け，来る9月よりカーバイト製造工業に着手する由は既報のごとくなるが，なお聞くところによれば新工場設定地は市内栄町から相馬町に達する道路の東方，公園道北側約1,500坪すなわち約5町歩の広きにわたり従来田地もしくは荒蕪地となりおれる所にて，このうち約2町歩は大坂金助氏の所有地なりしか．残りの約3町歩は12～13人の地主に分かれおりしも藤田組の希望により右全部の土地をいったん大坂氏の手に収め，総価格2～3万円にて大坂氏より藤田組へ売り渡しの手続きをとることとなりおれる由にて．大坂氏は実際これを買い入れするに当たり1反歩600円以上をもってしたる場所もありしという．しかして同地約5町歩は今や全部大坂氏の買い占める所となり，不日前約通り藤田組へ登記変更するに至るべき模様にして，藤田組は地所を受領次第，来月頃より地ならしに着手し，9月頃までに新工場の設置をなすべき予定なるが，まず資本約20～30万円を投じ東岳八戸方面の石灰石を以てカーバイト製造事業を開始すべく．燃料は初め木炭を以てするも漸次ガス会社の副産物たるコークスをもってするの予約あるがごとし．しかして一方，電燈会社にては右電力供給のため取りあえず600kwの新機械据え付けをなすはずにて，過日来続々荷着次第発電所へ運搬し，組み立てを急ぎおれり．なお藤田組新事業は，今のところ電力900kwの小事業に過ぎざるも，約5町歩の土地買収をなしたることといい，将来さらに2,000kwまでの電力需給の予約あるをもってみれば，もし諸事好調に進捗せんか，カーバイト以外の別個の大事業を目論見おれるもの．なるべく電燈会社にてもこれに応ずるべく，荒川方面に新発電所設置の計画ありという．

9月15日：藤田組が本市柳原にカーバイト事業を経営の計画あることは既報するところありしが，いまだ着業の模様なきより，あるいは事業を中止せるにあらずやなど唱えるものあれども本社の探聞するところによれば，当初青森電燈会社との間に電力供給の交渉成立と同時に工場建設位置に関しても同社の斡旋を要望するところありしが，これより先，野内村有志において同村に工場を設けるにおいては反あたり450円即ち坪1円50銭の価格を以て敷地買収に応ずるを内約し，藤田組にても略内決しありしものの如かりしも電力供給上よりせば遠距離なる等非常の不利あり．また，市としても市外に設置を見るに至るは好ましからざるを以て当市の大坂金助氏は種々右につき交渉をとげ，相馬町付近なる民有地の買収に着手せるが，地主においては多く時価以上の高値を唱える向いあり．百方焦慮の末3万余坪（栄町より相馬町に至る道路と古茶屋町より公園に至る道路の交差点より北と東に各数百間の抱擁地域）を数千円の損失を見越して坪1円50銭平均に買収を了し，既に藤田組より代金の領収も済ませあり．また，民地の間に介在せる堰畔のごとき官有地も藤田組の委任の下に大坂氏において払い下げの手続きを完了し，今や工場の建設を待つのみなりしところ．藤田組最初の予定にては本月中までに敷地約2万坪に地盛をなし，建築を終えるべきはずなりしも肝心の機械の輸入はアメリカ産鉄禁輸の影響にや予定期に遅れ，未だ着荷なく．従って建築取り運びに至らざるもののごときも電燈会社との契約は解かれたるにあらず．また，事業中止をなすとするも藤田組は相当補償の義務あるべきが，ともかく一説には同組の事業は最初カーバイト製造に着手するべきも右はさほど大規模のものにあらずして，さらに他のある事業を起こす計画にして，これに要する原料の買占めに日数を費やしつつあり．従って未着手のうちにありと称せり他のある事業とは果たして何な

るやは藤田組において秘しおるもののごとく．あるいは製鉄といいあるいは砲金というも確たる事はいまだ巷間知る者なきは事実なり．何しろ前叙のごとき状況にあるを以て果たして実際，事業の着手は何れの時となるべきかは，今日のところ予測するに由なきも，遅かれ早かれ本市の一角に大煙突を見られるべきは疑いなきところにして，既に藤田組にては人を派して傭夫の供給もしくは工場員を入るべき借家の関係等調査を了し，また技術者をして工場建設地の実測調査をなさしめたりという．しかして該事業も一時に大規模に着手するものにあらずして，まずカーバイト製造は現に着業しつつある東岳石灰石を鉄索により運搬して原料とし，着業すべく他のある事業も年をおって順次規模を拡張し，従って電力の需用を増加するに至るものなりという．

10 月 7 日：大阪の藤田組にて青森電燈会社より電力の供給を受け当市浪打公園裏通りに地を卜し，何らかの事業を起こすべしとは余程早くよりの懸案にて，既に土地の受け渡しを終了したること既報のごとくなるが，青森における事業の種類はいかなるものなるや未だ発表するところなきも，昨年 6 月より福島県河後郡日橋村大字廣田において 4,000kw の電力供給を受け操業開始した廣田製鋼所の出張所のごとき形式にて，技師事務員等も同製鋼所員において兼任すべき模様あり．現に過日来製鋼所員が来青し，工場設置その他につき奔走しつつあり．田窪主任技師は今月中来青すべしとの事なるが，事業着手の件は先月 26 日認可せられたる由にて，いよいよ去る 3 日より工場予定地の盛土に着手したるが，請負者は当市辻忠八，太田善太郎，阿部本次郎 3 名にて，面積 5,000 坪にわたり，平均 2 尺 5 寸ずつの盛土をなすべく本月中終了の契約の由にて砂利盛土は堤川その他より採取し，軌道を敷設し荷馬車にて運搬のはず．工場は来月早々敷地 1,000 坪の間に 8 棟を建築することとなるべき模様にて，目下設計を急ぎおれり．田窪技師来青後にあらざれば事業の種類規模を報道し難きも，とにかく 900kw の電力供給を受け，12 月もしくは来年 1 月より事業開始の意気込みらしく，最初の予定通り事業進行し，3,000kw の供給を受けるに至らば人夫のごときも 1,000 人くらいを要することとなるべきも，ここ 1 両年間は創業時代とて直ちに大規模の発展をみることなきやも知るべからざれども．要するに 200～300 人内外の労働者を使役する一工業が，ここ数月を出でずして市の一角に出現すべきたけは明らかなるべし．

10 月 20 日：大阪藤田組の当市公園裏通りにおいて経営すべき新事業に対する準備は，その後着々進行しつつありて，工場予定地の地盛のごときは今月中終了すべくいよいよ各工場の新築工事に着手すべき段取りとなりて，一昨日までに左記のごとくそれぞれ請負の件決定せるが，重なるものは 11 月末竣工し，その他も 12 月 15 日までには竣工すべき都合にて，諸機械類も来月中旬に着荷の予定なり．

炉室，付属下家，鍛冶工場，変電所，準備室，合計 5 棟にて 425 坪（建築請負辻忠八）．原料置場 3 棟，雑夫控所 1 棟，合計 4 棟にて 490 坪（建築請負小舘保治郎）．便所 4 箇所，守衛詰所・食堂・分析室各 1 棟，ただし天秤室及び渡り廊下を含む合計 4 箇所並びに 3 棟にて 65 坪 2 合 5 勺（建築請負外崎民次郎）．基礎工事その他雑工事（請負辻忠八）．建築木材約 2,000 石（請負小舘保治郎，柿崎豊吉，淡谷文作）．上鉄物約 1,000 貫匁（請負弘前農具会社青森支店並びに小田桐勝蔵，鈴木常五郎）．セメント 400 樽（請負島津圓次郎）．煉瓦 10 万枚（請負増子嘉一）．スレート 1,300 坪（請負大阪清水組）．

ちなみに右諸工事のうち最も大規模なるは炉室約 150 坪にして鍛冶工場のごときものをも新設するを見れば，その事業のごときもカーバイト以外のものに着目しおれるものなるべし．なお事務所は事業の着手後，明年頃新築することになるべしという．

11 月 9 日：大阪藤田組にては，従来の鉱業部を独立せしめ過般藤田鉱業株式会社を組織したるが，青森市において創始すべき事業も当然鉱業株式会社において継承することとなり着々進行中なるが，当地における新事業は，藤田組はもちろん日本においても全く新しき事業なる由なれば，これまで世間に噂されたるカーバイト製造もしくは製鋼にあらざることを察知するに難からざるも，鉱業会社の事業なれば鉱物を原料とするものなるはもはや争い難きところなるべし．しかして当地工場は青森電錬所と称することとなし，いよいよ来年 1 月より操業開始のはずにて，目下諸工事準備を急ぎつつあるが，最初より青森に工場新設する件につき交渉の任に当れる藤田組の猪苗代湖畔廣田製鋼所主任技師田窪彦一氏は，工事進行状況その他視察打ち合わせのため，昨朝急行にて来青し，電燈会社に柿崎取締役を訪問し，それより工場建設地を視察したり．

12 月 8 日：市内浪打における藤田鉱業株式会社の電錬所上棟式は，いよいよ来る 9 日同工場内において執行する事に決定したる由にて，事業は砂鉄をもって鋼鉄の原料たる銑鉄を製造するものにして，同会社にてはよほど以前より砂鉄の買占めに着手しつつありしが，将来事業の進行とともに製鋼をもなすこととなるべき模様なり．ちなみに青森電錬所庶務主任として去る 9 月以来，法学博士山本静馬氏滞青しおれり．

12 月 9 日「藤田鉱業株式会社電錬所上棟式において青森電燈柿崎取締役談」：（前文省略）昨年 1 月下旬，知己の大阪市藤田組田窪技師より青森市もしくは付近の地に化学工業の一大工場設置の計画あるにより，貴社において電力の供給に応じ得るや否やとの照電に接し，これを端緒としてその後は電気事業視察方々大阪，東京その他の地方へ度々出張し，交渉の結果帰来．当社において更に慎重審査を遂げたるに，藤田組の計画は独り会社の利益のみに止まらず，同工場の設置と否とは当市の工業発展上に至大の関係を有するものと認め，ここに青森市の公

益に資するの見地より当社は誠意を以て同組の起業を歓迎し，戦後外国の製品その他と価格の競争をなす場合においても事業者をして安固に健全なる発達を助成し，その永続を計る趣旨より電力料金に関しても極めて低廉に協定せり．

12 月 10 日「藤田鉱業株式会社電錬所上棟式において青森電燈柿崎取締役談」：藤田組においては，大正 4 年に大阪市築港に化学的諸工業の試験所を設け，種々の試験をなしつつありしが，そのころ同所の田窪技師より当社の富田技師に宛て増設工事の状況ならびに電力料金等の問い合わせありたれども，その後絶えて何等の消息なく，大正 5 年 1 月 22 日，突然電力の需要に関する照電に接したる次第なり．それ以来数回の電報往復の末，自分は 2 月中旬上阪し，同組本店において田窪技師その他と親しく交渉の結果，会社としては直ちに需要に応じかねるも契約の日より 1 年半以内に所要の電力を供給し得る予定にて交渉を進めたり．しかるに同組においては最初，名古屋電燈会社より電力の供給を受けるはずなりしも交渉ついに不調に帰し，それより当社へ照会したるものなりしも，前述のごとく急速に供給することはできないゆえに製品の急を要するため，さらに猪苗代電力会社に交渉をなしたるに，元より余力充分なる同社なれば直ちに 3000kw の電力需給の契約成立し，福島県若松付近なる廣田駅前に藤田製鋼所を一時仮設し，5 月開業をなしたれども，電力不廉なるために平和克服後は永続の見込み立ち難き事情ありて，将来当社との交渉成立に至らば低廉なる電力料金にて供給を受ける都合にて引き続き交渉を進め，6 月 9 日に至り意見一致し，7 月 1 日までに双方の手続きを経て契約を成立せしむることとなれり．

ゆえに当社においては昨年6月25日臨時株主総会を開催し，関係議案を提出し協賛を得たれども，これより先藤田組においては当社の余電力をなるべく早く使用せんとする趣意より，所要電力 2900kw のうち 900kw を同組において関係ある日本軽銀株式会社に譲り，同会社の工場を当地に設置けしめ，一時電力を融通することとなり，日本軽銀株式会社にては 5 月下旬より成田技師を派出し約 2 週間滞在，諸種の取り調べをなさしめ契約成立次第起業の手順を定めたれども，同社は初め名古屋電燈会社より電力の供給を受ける契約をなしたる由にて．これを解約するにあらざれば当地において工場を設置することできざるにより，これが解約を名電に申し込みたれども応ぜざるため，前記藤田組と当社との契約の趣旨はついにこれを実現することができない事情に遭遇せり．

従って藤田組の交渉員は別に立案の上，理事会に提出したれども，この間に同組理事に更迭あり．方々の方針も変わりて前後の事情をも顧みず，その提案を全然否決せりとの電報を 8 月 4 日に接手せり．その理由なるものを伝聞するに，廣田製鋼所を開業して未だ数日ならず，かつ事業の成績をも見ざる内に新たに青森に移転の契約を締結することは，藤田組の事業としてはあまりに軽率なり．たとえ多少損失ありとしてもしばらく同所に留まり，事業に努力するの必要あるべしというにあり．しかしてこれが善後策に関しては，同組の交渉員来青のはずなりしも段々遅延に及びたる．ゆえに自分は 9 月 10 日出発，上阪の上，同組本店の責任者に向かって初めて交渉開始以来の事実を詳述し，交渉に随伴したる複雑なる未決問題の解決を迫りたるに，結局同組に関係を有する横浜市高島丘にある日本カーボン株式会社の事業を拡張し，電力供給を大正 6 年中に当社と契約せしめ，その事業を青森市に成立せしむべしとの覚書を受領の下に，ひとまず藤田組との交渉を打ち切り 10 月 29 日帰社せり．

しかして日本カーボン株式会社の拡張事業の成立まで当社の余電力を以てある組合組織をなし，何らかの事業を経営し，一時的の起業することとなり．越えて本年 1 月に至り，カーバイト事業を選定したる次第なり．

前記カーバイト事業計画中に事情は急転直下に一変し，去る 3 月 4 日に至り再び田窪氏外 1 名来社し，特種の事業経営を青森市に新設することに関し再び契約案件を協定し，それ以来それぞれの手続きを経て今回の上棟式執行を実現するに至れり．当社も今後，電力事業促進については本県工業の発達に資せんことを期して，目下計画中なり．

12 月 10 日：藤田鉱業株式会社青森電錬所上棟式は，予記のごとく昨日午前 11 時より新築の電気室構内において行われたり．午前 9 時，電気室屋上において柿崎神官外 5 名にて神前祭を挙行し，10 時結了．10 時半来賓 100 余名一同式場なる電気室構内に参集するや電錬所庶務主任法学士山本静馬氏は開式の挨拶を述べるや所長田窪彦一氏は青電の柿崎取締役の紹介にて一段高き壇上に現れ，左のごとく開式挨拶を述べたり．（挨拶省略）

祝辞：青森市長 阿部政太郎，北山県会議長，青森電燈株式会社社長 大坂金助，青森商業会議所会頭 樋口喜輔，工藤卓爾代議士（各内容省略）

電錬所上棟式雑観：これはよい場所だ．遊廓地にしておくには惜しいものだ．遅かれ早かれ青森の工業地としなければならぬーとは事業的眼光を有するものの柳原の観察であった．これらの評言は，当時の知事の耳に達せるや否やは知らず．また原因の重なるものは何やら今は究むる必要もないが，遊廓は本市の大火後旭町に移転するとともにいよいよ柳原に工場を結びつける感を切実ならしめた．がその後両 3 年は何等の工場も見ることを得ず．工業に眼を有する人々の遺憾とするところなりしが，さすがに好位置はいつまでも見捨てられず，大湊木材会社を初めとして飴製造所やマッチ製造所，缶詰製造所等を見るに至って，ようやく柳原と工場をある程度まで実現するに至った．しかるに今度柳原に基礎を据えるべく，あまりに規模は大なりとて柳原と公園との中央にその位置を卜して藤田鉱業株式会社の青森電錬所の工場は，過般より新築工事のところ，いよいよ昨日上棟式祝賀会は別項のごとく盛大に挙行せられた．いまだ柳原は工場地